

# 上野幌・青葉地域

## 小規模校検討委員会ニュース

上野幌・青葉地域小規模校検討委員会では、上野幌・青葉地域4小学校の学校規模の適正化を進めるうえでの諸課題について検討しております。検討状況については、「検討委員会ニュース」として、随時保護者や地域住民の皆様にお知らせしてまいります。

2015.12.1 第7号

発行：上野幌・青葉地域小規模校検討委員会

### 第7回検討委員会 について

11月4日（水）午前10時から、上野幌西小学校で第7回の検討委員会を開催しました。

まず事務局から、個別に寄せられた意見の報告がありました。その後、統合パターン案の再検討を行いました。

### 報告事項

#### 個別に寄せられた 意見について

第6回検討委員会以降、電話で2件、メールで1件の計3件のご意見が事務局に寄せられており、その報告がありました。

- 統合の期限は決まっていないのか。
- 子どもが上野幌小学校に通学しているが、現状1学年1クラスしかなく、統合はやむを得ないと思っている。
- 上野幌小学校がなくなり通学距離が長くなるのであれば、スクールバスの検討をしてほしい。また、通学の安全面について不安があるので、議論は丁寧に行っていただきたい。

（事務局回答）

統合の期限は決まっていないこと。通学距離が2キロを超えた場合にバス定期券の助成があること。通学の安全面や不安の解消については、今後も具体的にご議論されていくことを回答しています。

（平成27年9月 電話）

- 来年小学校入学予定の未就学児5、6人の親を代表して意見している。ニュースで開校年度が32年度となっているが、本当にこの時期なのか。統合に関する話が進んでいないことに不安がある。
- ニュースを見ていると検討の状況が変わらないどころか、悪くなっている気がする。子どもたちの教育環境の確保を第一に考えているのであれば伝統や歴史ということはあまり関係ないのではないか。
- 1クラスだと親も児童も視野が狭くなってしまうので、統合することはやむを得ないと思っており、早く結論を出してほしい。

（事務局回答）

既存校舎を活用した統合でも工事等で2年程度かかること。活用する校舎等が決まらなると開校年度は遅れていくこと。検討委員会では子どもたちの教育環境を考えると統合はやむを得ないという認識で、統合のパターンを検討している旨を回答しています。

（平成27年10月 電話）

- 青葉小学校が上野幌小学校に統合する場合は、校区が広がり、通学や下校後友達と遊ぶことも大変になるのではないか。
- 青葉地区は高齢化率が高いが、市営住宅に子育て世帯を優先で入居させることにより、青葉小学校の児童が増えるのではないか。

(事務局回答)

検討委員会では青葉地域の再開発や市営住宅のあり方についても意見が出されており、様々な観点から統合の組合せの検討を行っていること。青葉地区の市営住宅については、地域からのご要望等により子育て世帯の入居枠を設けることになった旨を回答しています。  
(平成 27 年 10 月 メール)

## 検討事項について

第7回検討委員会では、今までに検討してきた3つの統合パターン案に出された意見を、メリットや課題としてまとめた資料を基に検討を行いました。

## ■統合パターン案の再検討について

### ■3つの統合パターン案

- ・4校を2校に統合（青葉小学校と上野幌小学校／上野幌西小学校と上野幌東小学校）
- ・3校を1校に統合（上野幌小学校、上野幌西小学校、上野幌東小学校）
- ・4校を1校に統合（青葉小学校、上野幌小学校、上野幌西小学校、上野幌東小学校）

### ■検討を要する項目

- ①児童数・学級数 ②中学校との関係 ③校区 ④通学安全 ⑤施設の改修 ⑥その他

## 委員から寄せられた 主な意見

統合パターン案に関して、委員から以下のような主なご意見などがありました。

- 今まで検討委員会で意見が十分言えていないといった意見があったが、既に出そろっているのではないか。課題を一つずつ片付けていったほうが、進むのではないか。
- 学校統合はいずれ行っていかなくてもならないと理解しているが、小規模校であることへの不満はあまり感じていない。統合によって子どもたちの活動範囲が広がることや通学距離が長くなることなどが皆さんに理解されていないような気がする。
- 統合を決めてしまうこと自体は簡単だが、懸念や不安をしっかりと話し合い、納得して進めていくべきではないか。
- 青葉地域は、仮に小学校が無くなると地域に何も無くなる。学校の統合は仕方無いが、結論を出すのはまだ早いのではないか。

- 検討委員会の中で、一步一步でも進展して話を進めていくことが、地域や保護者の皆さんの安心や信頼に繋がっていくのではないか。
- この2年間ほとんど検討が進んでいない気がする。より具体的なことを議論していかないと、何年たってもまとまらないのではないか。
- いくつかのパターン案を検討してきたが、その都度否定的な意見や肯定的な意見があり、このままではまとまらない。どのように最終的に決断するのかを決める時期に来ているのではないか。
- 平成32年、あるいは平成33年に開校することを念頭に置いて検討を進めていくべきではないか。
- 小学校の統合がどのようなになったとしても、地域の皆さんに応援してもらえるよう手を携えてやっていくのが学校の使命である。
- 目の前の様々な事項を検討することも意味はあるが、「結論」を決めて進めないと検討自体の意味がないのではないか。「落としどころ」を決めるべきではないか。
- これまで地域の思いや感情的な部分の話も出ていたが、統合の目的は一定の学校規模を確保することであり、学級数や児童数などの「数字」を軸に検討していかなければ進まないのではないか。
- 小学校を統合して規模が大きくなったとしても、進学する中学校の規模が小さければ、子どもたちに戸惑いがあるのではないか。
- 子どもの将来を見据えた検討を行うためには、小学校だけでなく、中学校の統合も念頭に置いた検討を行っていくべきではないか。
- 将来の校区の見直しも含め教育委員会には柔軟に対応してほしい。
- 中学校の統合がなければ小学校は4校を2校の統合以外に選択肢がないと思う。中学校の統合が可能なら3校を1校や4校を1校といった選択肢もあるので、中学校の統合も前向きに検討して欲しい。
- 中学校を含めて検討ができるのであれば10年後、15年後を見通して4校を1校でもいいが、中学校を含められないのであれば、4校を2校に統合するパターンで話を進めていいのではないか。
- 今年度の検討スケジュールの中に通学路の安全確保があるが、とりあえず4校を2校の統合パターン案で安全が確保されるのかどうか、作業部会を立ち上げてシミュレーションしてみたい。
- 長期的には4校を1校にすべきであると考えているが、校区の変更が難しいのであれば、短期的には4校を2校に統合するのが一番良いと思う。
- 中学校の統合が後回しになるのであれば、差し当たって4校を2校に統合するしかないのではないか。

- 4校を1校にすることは、個人的には望ましい提案だと思うが、校区が非常に大きくなることを踏まえ、周辺校も含めた校区の再編なども検討が必要である。
- 中学校の問題は残るが、通学路の再点検や校区のことも考えながら小学校の統合を検討していければいいと思っている。
- 学校規模の適正化は、クラス替えができることのほかに、教職員数が増えて教育内容の幅が広がるといったメリットもある。
- 子どもたち、保護者の方が新しい学校になって良かったという学校をいかに作っていくかがこの検討委員会の大事なことである。
- この地域の児童数は、予想を上回るペースで減少していることから、将来的には中学校も小規模化の懸念がある。
- 通学時の交通事故の発生件数は実際に少ない。このことよりも登下校時にふらふらしている子どもの方が問題である。

#### 事務局からの補足説明について

##### <中学校の検討について>

- 現在進めている学校統合の「2次プラン」では中学校が入っていないことから、今回中学校も含めた統合の検討は難しい状況です。

##### <校区の変更について>

- 校区変更を実施した学校もありますが、その際には皆様から様々なご意見を頂戴したことから、実施に当たっては慎重に検討していく必要があります。

##### <小中一貫校について>

- 札幌市では、小中一貫校の設置の可否について、来年度以降検討していくことを予定しています。

#### 第8回の検討委員会について

第8回の検討委員会は、12月中旬頃の開催を予定しており、これまで検討してきた各統合パターン案について再検討を行います。

■ **ご意見・ご質問は、下記の検討委員会事務局までお寄せ下さい** ■

#### ■ 上野幌・青葉地域 小規模校検討委員会 事務局 ■

札幌市教育委員会 生涯学習部 学校施設課（学校規模適正化担当）  
 〒060-0002 札幌市中央区北2条西2丁目 STV北2条ビル  
 TEL 011-211-3836 / FAX 011-211-3837  
 E-mail gakkokibo@city.sapporo.jp

※ この検討委員会ニュースは、札幌市教育委員会ホームページにも掲載予定です。  
<http://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/tekisei/kentoutiiki.html>